

各 位

「公益信託下水道振興基金」への寄付のお願い

公益信託下水道振興基金は、平成6年9月社団法人日本下水道協会の創立30周年を記念して設立され、以来21年に亘り、下水道に関する研究を行う研究者及び研究団体に対して、研究の助成、または海外での研究発表の助成を行い、下水道による環境保全に資する調査研究や学術交流の促進に寄与して参りました。

当基金は、下水道界を超えて広く研究者及び研究団体に下水道に関する調査研究への参加を公募により呼びかけ、その研究成果を通じ、将来の下水道事業の振興を図るとともに、将来の下水道事業振興のための人材確保を目的に設定されたものです。

当基金創設以来本年度までの研究の助成は123件、1億7千万円余、海外での研究発表の助成は103件、2千3百万円余にのぼり、当基金の支援を受け、下水道の研究を進展させてきた研究者は数多く、下水道技術者の層を厚くすることに役立ち、また更なる将来の研究の発展につながっていくと思われまます。

また、海外での研究発表者は下水道の研究の成果を海外に発信すると同時に各国の研究者と意見交換し、世界全体の下水道分野の技術の水準を向上させてまいりました。

(最近の助成研究成果の報告等 下水道協会 HP <http://www.jswa.jp/?p=13079>)

当基金は、下水道協会の当初信託金を基に、故久保 赳様からのストックホルム水大賞(水のノーベル賞)の賞金をはじめ、874名の個人及び189法人からの寄付金を原資として助成を行ってまいりました。

今までの当基金への受け入れ額は合計3億1千6百万円にのぼり、最近では、平成25年に積水化学工業(株)様からの寄付のほか、平成27年には、WEF(米国水環境連盟)前会長エド・マコーミック氏からも個人的に寄付が行われました。

しかしながら、これまでの21年間にわたる多くの研究者に対する助成により、研究等助成の信託財産残高が2千6百万円余にまで減少してきました。このままでは、ここ数年のうちに、助成を行うことができなくなる事態が予測されています。

下水道は健全な水循環に資する重要な社会インフラとしても着実に整備が進められる一方で、維持管理も含む新たな課題、あるいは社会資本としての新たな役割も重要となり、「循環のみち」としての下水道の使命は、従来の下水道の領域に加えて、多分野にまたがる知識とそれに基づく研究と技術、さらには実務的な蓄積と発展が求められ、幅広い研究がますます必要とされています。

このような状況下、当基金による研究支援を継続し、発展させていくために、下水

道関係の企業等の法人及び個人の皆様方におかれましては、趣旨・目的をご理解のうえ、当基金へのご寄付の篤志を、伏してお願い申し上げる次第でございます。

平成28年2月

公益信託 下水道振興基金 委託者
公益社団法人日本下水道協会
理事長 曾小川 久貴

寄付金

特別会員（個人会員） 1口 5千円

賛助会員（法人会員） 1口 10万円

1口以上、何口でも結構です。

また、寄付をいただいた方々の氏名、法人名および金額をその都度、下水道協会誌に掲載させていただくことにしておりますが、特に、匿名を希望される場合はその旨を申込書に記してください。

なお、法人が寄付を行われた場合は、一般の寄付金として損金算入限度額の範囲内で損金算入できますが、個人の場合は寄付金控除は受けられませんのでご承知置き下さい。

寄付金のお申し込みについて

寄付金のお申し込みは、別添の寄付金申込書に所要事項をご記入の上、下記送付先にご郵送ください。

「寄付金申込書の送付先」

〒103-8670

東京都中央区八重洲1-2-1

みずほ信託銀行（株）

信託総合営業第五部 下水道振興基金寄付係

TEL 03-3274-9177

詳しいお手続きについては、寄付金申込書受領後、みずほ信託銀行信託総合営業第五部より、ご連絡いたします。

公益信託下水道振興基金が育ててきた若手研究者

公益信託下水道振興基金で行ってきた研究助成と海外での研究発表助成をこれまで受けられた方々の顔ぶれを見ると、若手研究者が多数含まれています。下水道事業の急速な発展と共に、下水道研究はその質も量も格段に充実しました。大学などの研究機関における人材の充実と研究課題の広がりには目を見張るものがありました。このことは良いことなのですが、このような質と量の充実は、新たな研究を始める若手にとっては高いハードルとなり、特に研究に必要な資金をめぐる競争がますます厳しくなっています。新しいテーマで研究を始める熱意を持っている若手研究者が研究を開始、あるいは進める段階での研究資金の獲得は容易ではありません。いきおい、経験豊富な研究者が中心となった従来型の研究プロジェクトの一部に若手として組み込まれる道をとることが多くなります。もちろんそのような経験は重要ですが、自由な発想を持っている若手研究者にとっては、独自の研究提案を行い、それを実行し、結果として成功したり失敗したりする経験の方が、研究者としての経験を積む上で重要です。

平成6年に発足した下水道振興基金は、このような若手を始め多くの研究者を20年以上にわたって支えてきました。とりわけ、下水道として課題になっているテーマに関して新たな研究をスタートする場合、自由な研究を支える役割を本基金は果たしてきました。

本基金によって支えられた若手は、今や下水道研究の中心的な役割を果たす世代になり、さらに次世代を育てる役割を担いつつあります。このように、本基金は世代間で受け継がれつつ、下水道に関する研究の新たな発展を支えてきたと言えるでしょう。

この貴重な役割を持つ基金も、継続的に原資を補っていかねば失われてしまいます。今こそ、その継続と充実のために下水道界の協力が求められています。

ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

公益信託下水道振興基金運営委員会

委員長 花木啓祐

公益信託下水道振興基金

受託者 みずほ信託銀行株式会社 御中

(取扱店 信託総合営業第五部)

申込日 西暦 年 月 日

公益信託下水道振興基金
寄付金申込書

寄付金額 (口) _____ 円

寄付者 〒住 所

ふりがな
氏 名

電 話 ()

ご寄付いただいた方のご芳名、金額等を下水道協会誌に掲載させていただきますが、
特に匿名を希望される方は、次の匿名希望を○で囲んで下さい。

匿名希望

公益信託 下水道振興基金 調査研究助成

(敬称略)

助成年度	氏名	所属	研究テーマ
平成6年度		—	平成6年度 研究助成なし
		平成6年度 0件	
平成7年度	酒井 彰	株式会社日水コン	地域水管理における都市雨水管理システムに関する研究
平成7年度	市木 敦之	立命館大学	雨天時の流出汚濁負荷の削減および閉鎖性水域における富栄養化の防止
		平成7年度 2件	
平成8年度		—	平成8年度 研究助成なし
		平成8年度 0件	
平成9年度	市木 敦之	立命館大学	雨天時の流出汚濁負荷の削減および閉鎖性水域における富栄養化の防止
平成9年度	酒井 彰	株式会社日水コン	地域水管理における都市雨水管理システムに関する研究
		平成9年度 2件	
平成10年度	市木 敦之	立命館大学	雨天時汚濁物流出に及ぼす下水道整備効果の評価
平成10年度	小野 芳郎	岡山大学	雨天時流出に伴う道路堆積塵埃中の生態系に与える慢性・急性毒性物質の定量的評価
平成10年度	森山 克美	九州共立大学	河川流域における非特定汚染源からの汚濁負荷流出解析へのGISの利用
平成10年度	渡部 政広	愛媛大学	合流式下水道における雨天流出と非点源汚濁負荷流出の非常態解析モデルに関する研究
平成10年度	住山 真	株式会社日水コン	流域における水環境改善を目指した総合汚濁負荷制御手法に関する研究
		平成10年度 5件	
平成11年度	海老瀬 潜一	摂南大学	下水道整備・未整備混在流域市街地河川の降雨時汚濁負荷の流出特性と水質構成
平成11年度	高田 英重	東京農工大学	高速道路からの降雨時表面流出水中の毒性有機化学物質の存在形態、流出過程及び水域の汚染への寄与の推定
平成11年度	古米 弘明	東京大学	分流式下水道地域における微量汚染物質雨天時排出負荷量の自動採水・連続測定装置を用いた調査
平成11年度	和田 安彦	関西大学	道路網の発達した大都市地域における面源負荷発生の実態解明と汚濁物質の蓄積・流出シミュレーション解析
平成11年度	増田 貴則	京都大学	分布型モデルとGISを用いた合流・分流式下水道併合地域からの雨天時汚濁流出解析-GIS(地理情報システム)を用いた流域環境情報の統合化とその現象論・計画論への適用-
		平成11年度 5件	
平成12年度	福島 武彦	広島大学	有害化学物質の市街地への晴天時堆積量と合流型下水処理場への降雨時流入量との関係
平成12年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖研究所	滞留池による面源負荷削減方法に関する研究
平成12年度	古米 弘明	東京大学	分流式下水道排水区における微量汚染物質雨天時排出負荷量の自動採水・連続測定装置を用いた調査
平成12年度	渡辺 政広	愛媛大学	合流式下水道管渠網における余裕空間とゲート操作を利用した越流水対策とその効果に関する研究
平成12年度	井上 隆信	岐阜大学	懸濁態有機物質・栄養塩の雨水流出時変化特性に着目した汚濁負荷削減手法
平成12年度	張 昇平	名城大学	排水区条件・降雨特性を考慮した汚濁負荷制御システムの構築手法に関する研究
平成12年度	酒井 彰	流通科学大学	流域環境汚染リスク管理手法の提案とその適用方法に関する研究
平成12年度	増田 貴則	鳥取大学	分布型モデルとGISを用いた合流・分流式下水道併合地域からの雨天時汚濁流出解析
		平成12年度 8件	平成12年度 助成額計
平成13年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	手賀沼流域における雨天時の汚濁物質流出過程に関する多面的現地観測
平成13年度	土屋 十圀	前橋工科大学	中間山村地域からの面源負荷発生・流出機構に関する研究
平成13年度	山田 淳	立命館大学	地域特性を考慮した分流式下水道雨天時汚濁流出削減の計画・管理に関する研究
平成13年度	増田 貴則	鳥取大学	分布型モデルとGISを用いた合流・分流式下水道併合地域からの雨天時汚濁流出解析-GISを用いた流域環境情報の統合化とその現象論・計画論への適用-
平成13年度	井上 隆信	岐阜大学	雨水流出時の懸濁態リン組成比の変化特性とその流出源に関する研究

助成年度	氏名	所属	研究テーマ
平成13年度	細見 正明	東京農工大学	都市域における水循環モデルの構築
平成13年度	古米 弘明	東京大学	分流式下水道排水区における雨天時調査データに基づく分布型モデルによる連続降雨汚濁解析
平成13年度	皆巳 幸也	石川県農業短期大学	農地での融雪に伴う汚濁物質の流出に関するデータの収集と解析
		平成13年度 8件	
平成14年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖研究所	滞留池の面源汚濁負荷削減効果に及ぼす環境因子の影響把握
平成14年度	古米 弘明	東京大学大学院	分流式下水道排水区における雨天時調査データに基づく分布型による連続降雨汚濁解析
平成14年度	山田 淳	立命館大学	地域特性を考慮した下水道雨天時汚濁負荷流出予測への人工衛星情報活用に関する研究
平成14年度	野口 正人	長崎大学	諫早湾調整池に流入する非点源汚濁負荷の予測とその削減方策に関する研究
平成14年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	水質・堆積物環境調査に基づく手賀沼流域における降雨時汚濁負荷特性の研究
平成14年度	藤原 拓	高知大学	市街地と農業地域が混在した小河川流域における降雨時汚濁負荷流出特性に関する調査研究
平成14年度	永淵 修	福岡県保健環境研究所	雨天時汚濁負荷流出特性に着目した閉鎖海域への汚濁負荷削減手法－面源負荷としての森林域(人口ヒノキ林)からの雨天時汚濁負荷流出特性－
平成14年度	青井 透	国立群馬工業高等専門学校	群馬県内降雨の通年一斉調査による降雨量とPH、各態窒素濃度等水質の関係
		平成14年度 8件	
平成15年度	藤原 拓	高知大学	市街地と農業地域が混在した小河川流域における降雨時汚濁負荷流出特性に関する調査研究
平成15年度	山田 淳	立命館大学	雨天時市街地排水の浄化対策とその効果に関する実証的研究
平成15年度	永淵 修	福岡県保健環境研究所	雨天時汚濁負荷流出特性に着目した閉鎖性海域への汚濁負荷削減手法－面源負荷としての森林域(人口ヒノキ林)からの雨天時汚濁負荷流出特性－
平成15年度	福島 武彦	筑波大学	市街地からの有害化学物質の雨天時流出の連続観測とモデル化
平成15年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	手賀沼流域における河床堆積物環境と雨天時汚濁負荷量の関係性の研究
平成15年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖研究所	滞留池の面源汚濁負荷削減効果に及ぼす環境因子の影響把握
平成15年度	野口 正人	長崎大学	諫早湾調整池に流入する非点源汚濁負荷量の削減方策に関する研究
平成15年度	大村 達夫	東北大学大学院	雨天時の合流式越流水中の腸管系ウイルスの挙動解析とリスク評価(阿武隈川流域を対象として)
平成15年度	佐藤 五郎	米沢中央高等学校	最上川上流における面源負荷の流送機構について
		平成15年度 9件	
平成16年度	青井 透	国立群馬工業高等専門学校	河川上流域都市下水の膜分離活性汚泥及び植物栽培池ハイブリッドシステムによる親水用水の製造と地域水循環の改善
平成16年度	浦瀬 太郎	東京工業大学大学院	雨天時の下水道から公共用水域に排出されるSS負荷を重金属負荷に換算する方法に関する研究
平成16年度	福島 武彦	筑波大学大学院	市街地からの有害化学物質の雨天時流出の連続観測とその発生源・動態解析
平成16年度	大村 達夫	東北大学大学院	雨天時の合流式越流水中の腸管系ウイルスの挙動解析とリスク評価(阿武隈川流域を対象として)
平成16年度	藤田 昌一	長岡技術科学大学	新方式の自動サンプリング装置による連続観測データを用いた流出解析に基づく降雪地域の合流改善と水系リスク管理
		平成16年度 5件	
平成17年度	松本 修二	下水道高度処理研究会	新高度処理法「生物反応ろ過層」利用による水循環改善研究
平成17年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	新たな簡易環境モニタリング手法に基づくノンポイント汚染源調査と河川水中の懸濁態物質起源の推定
平成17年度	和田 安彦	関西大学工学部	都市域ノンポイントからの微量有害(発ガン性)物質の雨天時汚濁流出のモデル化と削減方策に関する研究
平成17年度	藤田 昌一	長岡技術科学大学	実施設における連続観測に基づく新しい合流改善対策の提案
平成17年度	齋藤 利晃	日本大学	環境負荷の削減と資源回収を目的とした新規下水処理プロセスの開発
		平成17年度 5件	
平成18年度	姫野 修司	長岡技術科学大学	実下水を用いた実機スワールの性能評価に基づく新たな低コスト型合流改善対策の実用化に関する研究開発
平成18年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	都市小流域における湧水再生・面源負荷削減策に関する総合的検討 ～印旛沼流域を例に～

助成年度	氏名	所属	研究テーマ
平成18年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	琵琶湖流入河川(野洲川、日野川)における降雨時負荷を含めた年間汚濁負荷量の把握
平成18年度	齋藤 利晃	日本大学	環境負荷の削減と資源回収を目的とした新規下水処理プロセスの開発 ～包括固定化担体を用いた下水からのリン資源回収プロセスの適正化～
		平成18年度 4件	
平成19年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	琵琶湖流入河川(野洲川、日野川)における降雨時負荷を含めた年間汚濁負荷量の把握
平成19年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	都市小流域における湧水再生・面源負荷削減策に関する総合的検討 ～印旛沼流域を例に～
平成19年度	三上 隆	北海道大学大学院	重金属を主な対象とした都市雨水排水中の汚濁物質制御
平成19年度	田中 宏明	京都大学大学院	重要水域にある下水処理場でのリスク低減のための雨天時処理システムの開発
		平成19年度 4件	
平成20年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	都市小流域における湧水再生・面源負荷削減策に関する総合的検討 ～印旛沼流域を例に～
平成20年度	春日 郁朗	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻水環境制御研究室	合流式下水道管渠内堆積物における重金属類の存在量と化学形態の評価
平成20年度	村上 道夫	東京大学 総括プロジェクト機構	大気塵埃及び路面堆積物を考慮した市街地ノンポイント窒素負荷量の調査
平成20年度	三上 隆	北海道大学大学院工学研究科	重金属を主な対象とした都市雨水排水中の汚濁物質制御
平成20年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	降雨時に市街地から流出する難分解性有機物および栄養塩負荷量の把握
平成20年度	渡辺 政広	愛媛大学 大学院理工学研究科生産環境工学専攻	InfoWorks雨水流出モデルと分布型土研モデルを組み合わせた分布型雨天時汚濁負荷流出シミュレーションモデルの開発に関する研究
平成20年度	姫野 修司	長岡技術科学大学	ヒートアイランド現象抑制のための消雪パイプを用いた打ち水効果の検証及び広域における効率的な打ち水手法の確立
		平成20年度 7件	
平成21年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	CSO流入に伴う大河川感潮域の貧酸素水塊発生機構
平成21年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	降雨時に市街地から流出する難分解性有機物および栄養塩負荷量の把握
平成21年度	三上 隆	北海道大学大学院工学研究科	重金属を主な対象とした都市雨水排水中の汚濁物質制御
平成21年度	姫野 修司	長岡技術科学大学	雨天時に雨水とともに排出する道路排水での汚濁負荷の実態調査
		平成21年度 4件	
平成22年度	中田 晴彦	熊本大学大学院自然科学研究科	市街地道路および廃棄物処分場等から雨天時に流出する新規有害化学物質の汚濁負荷に関するマスバランス解析
平成22年度	大久保 卓也	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	市街地および農地からの降雨時流出負荷量予測シミュレーションモデルの作成
平成22年度	二瓶 泰雄	東京理科大学理工学部土木工学科	CSO流入に伴う河川感潮域の貧酸素水塊形成および魚大量斃死発生メカニズム
平成22年度	尾崎 平	関西大学環境都市工学部	短時間強雨時の合流式下水道越流水の負荷流出特性とその制御に関する研究
平成22年度	見島 伊織	埼玉県環境科学国際センター	雨天時汚濁負荷の変動に伴うN ₂ O発生のモデル化と多面的環境負荷削減効果の検討
平成22年度	浦瀬 太郎	東京工科大学応用生物学部	下水処理水臭の測定、処理水臭の生成・分解・揮発に影響を与える因子に関する研究
平成22年度	中田 典秀	京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター	雨天時に排出される汚濁流出量の把握と雨天時流出負荷削減のための基礎検討
		平成22年度 7件	
平成23年度	二瓶 泰雄	東京理科大学	CSOインパクトに晒された都市河川感潮域における貧酸素水塊動態予測システムの開発
平成23年度	大下 和徹	京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻	液化ジメチルエーテルを用いた下水汚泥の常温乾燥と固形燃料化にともなう性状・組成の変化に関する研究
平成23年度	中田 典秀	京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター	雨天時に排出される汚濁流出量の把握と雨天時流出負荷削減のための基礎検討
平成23年度	見島 伊織	埼玉県環境科学国際センター	雨天時汚濁負荷の変動に伴うN ₂ O発生のモデル化と多面的環境負荷削減効果の検討
平成23年度	赤松 良久	山口大学大学院理工学研究科社会建設工学専攻	河床堆積物の炭素・窒素安定同位体比を用いたノンポイント汚濁負荷の評価
		平成23年度 5件	
平成24年度	出口 浩	東京理科大学理工学部土木工学科	生物脱リン処理を行う下水汚泥からのリン回収に関する研究
平成24年度	原本 英司	山梨大学大学院医学工学総合研究部	都市河川における水感感染性の病原微生物の降雨時流出負荷の解析

助成年度	氏名	所属	研究テーマ
平成24年度	栗栖 聖	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻	江戸城外濠の水質改善に向けた下水再生水導水効果の評価
平成24年度	矢口 淳一	独立行政法人高専機構 八戸工業高等専門学校	嫌気性消化における病原菌不活化プロセスの解明とそれに基づく消化液液肥の研究開発
平成24年度	李 玉友	東北大学大学院環境科学研究科	嫌気性膜分離メタン発酵法を用いた新しい下水処理システムの基礎的研究
平成24年度	見島 伊織	埼玉県環境科学国際センター	雨天時汚濁負荷の変動に伴うN ₂ O発生モデル化と多面的環境負荷削減効果の検討
		平成24年度 6件	
平成25年度	栗栖 聖	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻	江戸城外濠の水質改善に向けた下水再生水導水効果の評価
平成25年度	中尾 賢志	大阪市立環境科学研究所	下水汚泥溶融スラグからのリン回収に関する基礎的技術の開発
平成25年度	松井 一彰	近畿大学理工学部社会環境工学科	雨水および越流下水が東横堀川・道頓堀川の微生物相に及ぼす影響の解析
平成25年度	大下 和徹	京都大学大学院地球環境学学	メタン発酵前処理によるバイオガス量の増大とシロキサン低減に関する研究
平成25年度	小倉 紀雄	全国水環境マップ実行委員会	市民・NPOによる全国一斉水質調査からみる水質改善状況と下水道との関わり
平成25年度	西田 修三	大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻	合流式下水道越流水による年間総負荷量の算定と河道部における水塊挙動の解析
		平成25年度 6件	
平成26年度	石川 奈緒	岩手大学工学部	降雨状況を反映した合流下水の直接放流による水域への影響評価
平成26年度	松井 一彰	近畿大学理工学部社会環境工学科	雨水および越流下水が東横堀川・道頓堀川の微生物相に及ぼす影響の解析(継続)
平成26年度	北條 俊昌	東北大学大学院工学研究科	二相循環式嫌気性消化法を用いた下水処理場におけるバイオガス増産と汚泥減量化効果の検討
平成26年度	姫野 修司	長岡技術科学大学環境・建設系	バイオガス増産と脱水汚泥量削減を両立させる混合嫌気性消化技術の開発
平成26年度	中村 公人	京都大学農学研究科	流出源対策の方向性を示すための流域レベルの流出負荷量推定モデルの構築
		平成26年度 5件	
平成27年度	栗栖 太	東京大学大学院工学系研究科	微生物再増殖基質の低減に効果的な下水再生水処理プロセスの検討
平成27年度	日高 平	京都大学大学院工学研究科	集約嫌気性消化による小規模下水処理場での汚泥有効利用の促進
平成27年度	松井 一彰	近畿大学理工学部社会環境工学科	雨水および越流下水が東横堀川・道頓堀川の微生物相に及ぼす影響の解析(継続)
平成27年度	市橋 修	岐阜大学流域圏科学研究センター	下水汚泥からのエネルギー回収技術としての微生物燃料電池のポテンシャルの評価
平成27年度	増田 貴則	鳥取大学大学院工学研究科	受水域の生物生産と水質の改善を指向した下水中エネルギー・栄養塩の生物利用可能性に関する研究
平成27年度	大下 和徹	京都大学大学院地球環境学学	下水および汚泥に含まれる汚濁粒子の粒径別発熱量分布に関する調査研究
		平成27年度 6件	
平成6年度～平成27年度 研究助成件数 111件			